戦争の悲惨さ 命の尊さ 平和の大切さ

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が広島の平和記念公園で行われ、本市から市内各公立中学校の生徒代表8人を含む13人の平和使節団が参列し、原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげました。

また、各中学校、女性団体連絡協議会、青年会議所、市職員そして市役所に来庁した方々、それぞれが平和への願いを込めて折った千羽鶴(約1万5000羽)を公園内にある「原爆の子の像」にささげてきました。

土浦市地区長連合会会長
秋津昌平さん

此の度の平和祈念式典へ参加した、8名の中学生と同年代であった昭和20年8月2日に私は水戸市に襲来した、130機以上のB29により家は全焼し、また300名以上の方が亡くなり、水と食を求めて大工町を歩いておりました。それから、4日後の8月6日、B29の1機が広島市の上空に入り新型の爆弾が投下され、大きな被害が有った模様ですと8月7日にラジオ放送を聞いた事を覚えております。後にそれが原子爆弾であり、水戸市の460倍14万人以上の人々が亡くなった事を知らされ、強い衝撃を受けました。

戦争とは、時の指導者が、どんなに正当化してもキリスト教国のアメリカでさえ、此の様に一般市民を爆死させ平和な家庭を破壊したのです。

此の度参加した13名は、平和記念資料館の見学と全国各地の方、諸外国の方と一緒に平和記念公園で犠牲者のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げることが出来ました。

戦争の悲惨さと命の尊さを新たに、核兵器の廃絶、平和がいかに大切であるか、参加出来た皆と一緒に語り伝えて行きたいと思います。

土浦市女性団体連絡協議会
武田芳枝さん

この度、平和使節団の一員として平和祈念式典に参加出来ました事に感謝申し上げます。

平和記念資料館には、焼けこげた学生服や原爆が投下された午前8時15分で止まった時計等が展示され、被害の恐ろしさを感じました。一瞬にして多くの尊い命が奪われ街が壊滅した。このような事が二度と起こらないように被爆国の国民として核の廃絶を訴え続けて行かなければならないと強く感じました。

土浦青年会議所
大山文彦さん

本年度、土浦市平和使節団に社団法人土浦青年会議所の代表として参加させていただきました。

原爆が投下された日から既に62年が経過し当時の被害を受けた施設にも老朽化が目立ってきております。しかしこのような出来事があったことを我々は忘れてはならないし、またわれわれ人類はこのような悲惨な体験をもう二度と子供たちに味合わせてはならないとあらためて感じました。

私たちが活動する青年会議所は、恒久的な世界平和を究極的な目的としており、今回の参加で得たものをさまざまな運動を通じて多くの人たちに伝えて行くことで、平和な世になっていくことに貢献していきたいとあらためて感じました。

この平和使節団に参加させていただきありがとうございました。

土浦二中教諭　寺田美代さん

平和使節団引率として、広島平和祈念式に参列させて頂けたことに感謝いたします。

この三日間を通して、広島の人々の平和への思いの強さや、日本国内・世界各国の式典参加者の多さに驚き、恒久平和を願う行動は様々であることを、生徒と共に感じ取ることができました。

生徒達は資料館・爆心地付近の小学校において数多くの資料を食い入るように見学し、灯篭流しでは世界平和への願いを真剣に書き記していました。その姿を目にし、改めて土浦市の取り組みの意義を認識しました。

「二十一世紀は市民の力で問題解決できる時代」という広島市長の言葉を心に置き、若い世代と共に「平和都市土浦」の実現に尽力していきたいと思います。

土浦一中　2年　砂田規彦さん

僕が広島に行って、一番考えさせられたことは、原爆の恐ろしさです。それは、僕の想像していたより、何倍も恐ろしい物でした。その熱線を浴びた人は、その部分が焼けただれてしまいます。火傷で済んだ人も火傷の部分がもり上がってしまい、差別をされることもありました。放射線を受けてしまった人は、生き残っても髪の毛は抜け、歯ぐきからは出血してしまいます。さらに皮膚の下に血がたまって紫色の斑点ができ、たいていの人は死んでしまいました。

僕はもう二度とこのような事がないように平和を願って生きて行こうと思いました。

土浦二中　2年　宮澤　直さん

広島へ行って学んだ事…。それは、本当にたくさんあって書ききれません。資料館に展示してあるもの、現在も市内に残っている被爆物をただ見て回るならば、普通の美術館や記念物と何ら変わりありません。

しかし、それらとは決定的に異なるものが広島にあります。それは、人々の苦しみ悲しみであり、死です。それを考えると本当に恐ろしくなります。見るもの、立っている地面全てにエピソードがある。そういった感覚は初めてでした。僕はこの感覚を一生忘れません。

土浦三中　3年　山崎　桜さん

私は以前、夏休みの宿題として戦争について調べました。その時は、資料などを利用し、なんとなく…「戦争ってこんなものなんだな」っと感じていました。しかし、今回、土浦市平和使節団の一員として広島を訪れ、実際にこの目で原爆ドームや資料館を見たことにより、今まで自分の中にあったイメージをはるかに超えた何かに出会った気がします。

62年前に起った、あの日のあの悲劇が再び繰り返されることがないように。そして、被爆された方、そのご家族の心と体に残った痛みを理解できるように。

今、私自身ができることは、少しでも多くの人に「平和の大切さ」を伝えていくことだと改めて考えさせられる貴重な3日間になりました。

土浦四中　2年　大場志帆さん

路面電車の窓から遠くかすかに見えた原爆ドーム。その存在感に圧倒されました。空から浮かび上がったその建物は戦争の恐ろしさにしめだされていました。しかし、そこには、恐ろしさだけでなく、平和への思いや祈りがありました。今、現在、軍事に使われている大量のお金を平和のために使ってみてはどうでしょう。世界の笑顔がたくさん広がるのではないのでしょうか。

人は心を持ち、言葉を持っています。人はその心で戦争を起こしました。今度は、その言葉で一人ひとりが世界中に愛の種をふりまく花となれれば、きっと世界は変わるはず…。そう信じて、私はすてきな花となりたいです。

土浦五中　2年　岡本亜希子さん

今回の派遣で、今まで深く考えなかった戦争に多く触れ貴重な体験をさせていただきました。

原爆ドームを見た時は、周りが驚く程に復興していて、一瞬、62年前の暗く悲惨な情景が嘘のように思えました。

しかし、町の至る所には、はっきりと傷跡が残っていました。広島の人々はすごいと思います。戦争のつらさ、苦しさを乗り越えたからこそ今があるのです。私は、そんな広島の人々の強さを忘れずに、多くの人々に伝えていかなければならないと思いました。

土浦六中　2年　中原美南さん

私は、土浦市平和使節団に参加して命の尊さを感じました。原爆ドームや資料館、平和記念公園に灯篭流し、どれも写真などと違い迫力がすごく、「百聞は一見にしかず」と言いますが、本当にその通りだと思いました。その迫力と共にたくさんの事を感じ取りました。

家族と一緒に暮らし、毎日普通の生活が送れる。そんな当たり前なことがすごく幸せだと思いました。そして、それができるのは、命があるからだと気付きました。

今回、広島に行けて自分を産み育ててくれた両親、先生、土浦市の方々に感謝します。たくさんの友達をつくる事ができ、命の尊さを感じました。

都和中　2年　川島晴香さん

私は、今回の平和使節団に参加して、やはり一番祈念式典が印象に残りました。最初に思った事は、人の多さです。私は、「この人々全てが、平和を望めば。」と思いました。それほどまでに日本の人や外国の人たちもたくさんいました。その中で、子供代表の2人の小学生が平和の誓いで「広島でおきた事を過去にはしません。」と言っていました。

私は、平和を作るために、過去を忘れず未来に生きる事が必要だと言う事を改めて思わされました。未来のため、世界の平和のためにも。

新治中　1年　平田達也さん

今回、僕は三日間、平和使節団として広島に行きました。僕は、初めて広島を見た時びっくりしました。それは、原爆によって焼け野原となり、七十年間位は草1本すら生えないといわれた土地に、土浦に負けない位の自然あふれる都会だったからです。そして、平和記念資料館では、今までよく分からなかった原爆の悲惨さ、おそろしさを知りました。

僕はだれになんと言われても原爆に反対です。そして、広島や長崎のような悲惨な事が二度と起らない未来にしたいと思いました。

（すべて原文のまま）